

創世記9 創世記4章1節～16節

「カインとアベル」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 創世記には11の区分（トルドット）がある。
- (2) 第1のトルドットの内容
 - ①アダムの創造
 - ②エデン契約
 - ③エバの創造
 - ④墮落
 - ⑤アダム契約（無条件契約）
 - ⑥エデンの園からの追放
 - ⑦カインとアベル
 - ⑧カインの子孫（神から離れて歩む人々。アダム以降7代目まで）
 - ⑨セツの子孫（主の御名によって祈る人々）
- (3) 創世記の記事は、神話や伝承ではなく歴史的事実である。
- (4) がん哲学—始まりは小さい。時間がかかる。

2. メッセージのアウトライン

- (1) ユダ11
「ああ。彼ら（不信仰な人々）はカインの道を行き、利益のためにバラムの迷いに陥り、
コラのようにそむいて滅びました」
- (2) カインは不信仰者の原型である。
- (3) カインの道の5つのステップを取り上げる。

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 神から離れた人間の状態はどのようなものか。
- (2) 人類の希望はどこにあるのか。

このメッセージは、「カインの道」の5つのステップを確認し、人類が抱える問題の解決を探るものである。

I. 殺人(1~8節)

はじめに：1~8節は、「カイアズム」になっている。

- (1) カインの誕生、アベルの誕生
- (2) アベルの職業、カインの職業
- (3) カインのささげ物、アベルのささげ物
- (4) アベルのささげ物は受け入れられ、カインのささげ物は拒否される。
- (5) カインの怒り、アベルの死

1. カインの誕生、アベルの誕生

- (1) 「人は、その妻エバを知った」。「知った」とは、経験的知識、性的関係のこと。
- (2) 「私は、主によってひとりの男子を得た」
 - ①「得た」→「カニティ」という言葉。
 - ②「カイン」→「形作る」という意味。
 - ③同じ語幹ではないが、音が似ている。言葉遊び。
 - ④直訳は、「私は、男子(人)を得た、(エツト)ヤハウエ(主)を」
 - *エバの3章15節の理解が前提となっている。
 - *エバは、「女の子孫」を「神人」と理解しており、救い主が与えられたと考えている。
 - ⑤日本語(英語)の訳は、70人訳がベースになっている。
 - *「ディア・ツー・セウー」(神を通して)
 - *翻訳者は、必ずしも神学者ではない。
 - ⑥エバの創世記3:15の理解は正しいが、適用が間違っている。
 - ⑦カインは、「女の子孫」ではない。
 - ⑧しかし、カインの誕生は、最初の希望となった。
- (3) 「アベル」のヘブル語は、「ハベル」。
 - ①それには、「はかなさ、むなしさ、空虚、息」などの意味がある。
 - *ヨブ7:16、詩篇144:4
 - ②この段階で、罪の影響が深まり、アダムとエバはそれを実感するようになっている。
 - ③カインが「女の子孫」でないことが明らかになっている。

2. アベルの職業、カインの職業

- (1) アベルの職業：羊を飼う者。ミルク、衣服、犠牲の動物。
- (2) カインは、父アダムの職業に倣い農夫となっている。

3. カインのささげ物、アベルのささげ物

- (1) 「ある時期になって」→「ある期間(時期)の終わりに」

- (2) この時点で、すでに定期的なささげ物の時間が決まっていた。
- (3) これは、初めてのささげ物ではない。
 - ①それまでは、カインはアベルから羊かヤギを買ってささげていたはず。
 - ②カインが血のないささげ物をささげる最初のケース。
- (4) 今回は、地の作物から主へのささげ物を持ってきた。
 - ①「ささげ物」→「ミンハ」という一般的な用語。
 - ②これは、血がないので神に受け入れられない。
 - ③モーセの律法でも、穀物のささげ物は、血がともなわなければ受け入れられない。
- (5) これは、信仰のない「宗教的行為」である。
 - ①単なる義務感からの行為。
 - ②それは最高のもので、初穂でもない。
- (6) 「主のもとに献げ物として」(新共同訳) →決められた場所があった。
 - ①祭壇が出て来ないので、エデンの園の東側のシャカイナグローリーの場所か？
- (6) アベルのささげ物
 - ①初子の羊(血のささげ物)、最良のもの。
 - ②アベルにとっては、信仰の行為。
 - ③2人の態度の違いの問題なのか。そうではない。
 - ④血の犠牲かどうか。アベルの信仰について。ヘブル11:4、12:24。

4. アベルのささげ物は受け入れられ、カインのささげ物は拒否される。

- (1) 主はアベルのささげ物を受け入れた。
- (2) しかし、カインのささげ物は退けられた。

5. カインの怒り、アベルの死

- (1) カインは、怒った。顔を伏せた。
 - ①神の道を否定した。
 - ②自分の道が認められないので怒った。
- (2) 神の質問(答えを期待しない質問)
 - ①なぜ憤っているのか。
 - ②なぜ顔を伏せているのか。
- (3) 神の警告
 - ①「正しく行ったら」→ふさわしいささげ物を捧げたなら。
 - ②「受け入れられる」とは、「顔を上げられるはずではないか」という意味。
 - ③「正しく行っていないなら」→ふさわしいささげ物でないなら。
 - ④「罪」という言葉が初めて出ている。「ハタアット(女性形)」

*ライオンが待ち伏せするように、というイメージ。

*罪がカインを支配（タシュカー）するために、ライオンのように待ち伏せしている。

*3：16に、女が夫を支配しようとする姿が描かれていた。

*カインの責務は、それを治める（マシヤール）こと（3：16と関係がある）。

(4) 殺人が行われる。

①カインはアベルを人目につかない所に誘った。

②最初の殺人であり、兄弟殺し。

③アベルの死は、義人の死。マタイ 23：35、ルカ 11：51、I ヨハネ 3：12

II. 嘘（9～12節）

1. 神の質問。「あなたの弟は、どこにいるのか」

(1) 告白を導くための質問

2. カインの答えは、「知りません」。

(1) これは、人類史上最初の嘘。

(2) カインは自分の答えを複雑なものにしている。

①「私は、自分の弟の番人なのでしょうか」

②神の質問は的を射ていないとの反論である。

3. 神の糾弾のことば。

(1) 「あなたは、いったいなんということをしたのか」

(2) 「聞け。あなたの弟の血が、その土地からわたしに叫んでいる」

①「血」という言葉が、初めて出てくる。

②それが弁護を求めている。

(3) 土地はのろわれている。

①カインが住む地、農業を営む地。

②土地が口を開くという例

*民数記 16：33～35、申命記 11：6、詩篇 106：17

*モーセに反抗したエリアブの子ダタンとアビラム、それにコラに属する者たち

*イザヤ 5：14

4. カインの裁き

(1) 土地は力を生じない。弟の血が土地から神に上るように、呪いはカインに上る。

- (2) カインは、地上のさすらい人になる。
- (3) ノア契約までは、死刑はない。創世記9：6

Ⅲ. 自己憐憫 (13～15 節)

- 1. アダムは、エデンの園から追放されても文句を言わなかった。
- 2. カインは、文句を言う。
 - (1) 「私の咎は、大きすぎて、にないきれません」
 - ① 罪の認識がある。
 - ② 神の裁きの認識がある。
 - (2) 農業を営む力が取り去られた。
 - (3) 神との交流がなくなる。
 - (4) さすらい人、遊牧民となる。
 - (5) 他の人に殺されるでしょう。
 - ① この時点で、人間の数は増えている。
 - ② すべてアダムとエバの子孫 (創世記5：4)。
 - ③ 自分がアベルを殺したので、他の人に殺されるという恐怖心。
- 3. 主の回答
 - (1) 「それだから、だれでもカインを殺す者は、七倍の復讐を受ける」
 - ① 7は完全数
 - ② ここでカインは、神の守りを受けている。恵みである。
 - (2) カインのしるし
 - ① なんであるかは分からない。しかし、見えるもの。
 - ② ユダヤ教のラビの意見
 - * 名前の1文字
 - * 4文字
 - * ツアラアト (皮膚病)
 - * 番犬
 - * 角

Ⅳ. 神からの分離 (14～16 節)

1. 「主の前から去って」→遍在の神から去ることはできない。
 - (1) 主に会おう特定の場所のこと。
 - (2) シヤカイナグローリーのあるエデンの園の東。
2. 「ノデの地」、「ノド（さすらい）の地」（新共同訳）
3. 「エデンの東」とは、目に見える神の臨在から東の方に遠のくこと。

V. 世的な方法で自分を守る（17節）

1. 町を建てている。
 - (1) 神の命令に違反する行為。
 - (2) 子どもの名前（エノク）を町の名前にする。

結論

1. カインとアベルは、ともに罪人であった。
2. ともにエデンの園の外で生まれた。
3. ともに同じ両親から生まれ、育てられた。
4. カインのささげ物は、信仰によるものではなかった。
5. アベルのささげ物は、啓示に応答する信仰によるものであった。
6. 2代目カインの流れは、7代目レメクにたどり着く。神を離れた生き方の象徴。
7. アベルで途絶えた霊的な流れは、セツから再度始まっていく。
8. あなたは、カインの流れに合流するのか、セツの流れに合流するのか。